



計画の方針

待兼山は緑豊かな自然を残した場所であり、その地下には古墳群をはじめとして、弥生時代から近世にいたるまでの住居址や埋蔵文化財の存在することが確認されている。本プロジェクトは、待兼山の植物や昆虫の生態系を保護し地下遺構を保存整備するとともに、収蔵・展示の設備はもとより、研究室や学習支援機能をあわせもつ博物館を建設し、待兼山全体を博物館としようとするものである。

施設の構成

◇展示エリア

<常設展示>

- ・マチカネヤマワニを中心とする待兼山自然史展示
- ・大阪大学の精神的源流たる適塾・懐徳堂関連展示
- ・真空管式電子計算機などの技術史・理化学機器展示
- ・薬用植物標本などの理学・薬学・医学系展示
- ・出土品・古地図・文献など考古学関連資料

<企画展示>

- ・教育研究活動・成果の発表の場
- ・学外からの展示公開のニーズにも対応

<展示ロビー>

- ・休憩、ミーティング、大規模企画展示、イベント

◇学習支援エリア

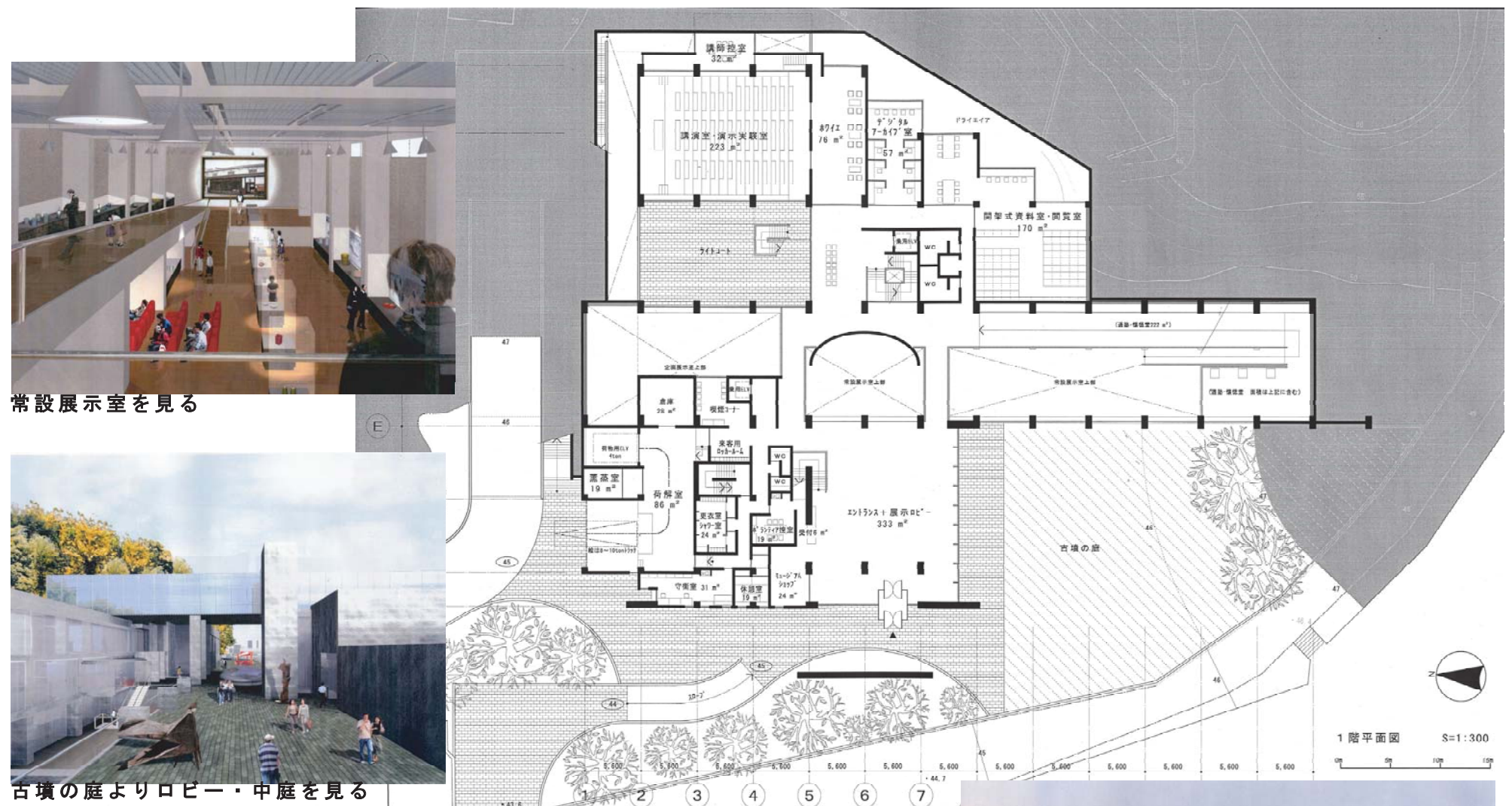
- ・講演室、体験ラボ、開架資料室
- ・デジタルアーカイブ室（多様な媒体によるデータ・図書検索のための情報拠点）

◇研究エリア

- ・豊かな想像力を触発する優れた居住環境
- ・待兼山の眺望、採光の確保

◇収蔵エリア

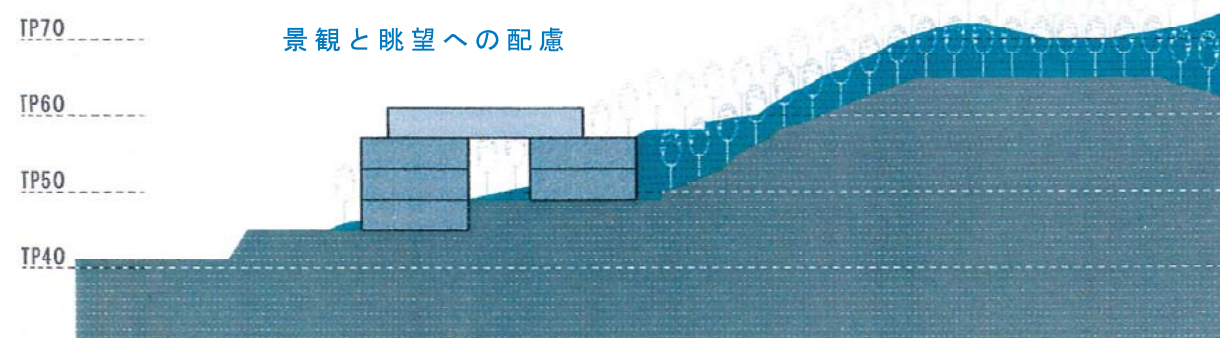
- ・学内各部門の標本類を一元管理
- ・大型機器類の収蔵、二段式収納に対応



常設展示室を見る

古墳の庭よりロビー・中庭を見る

▼待兼山山頂TP77

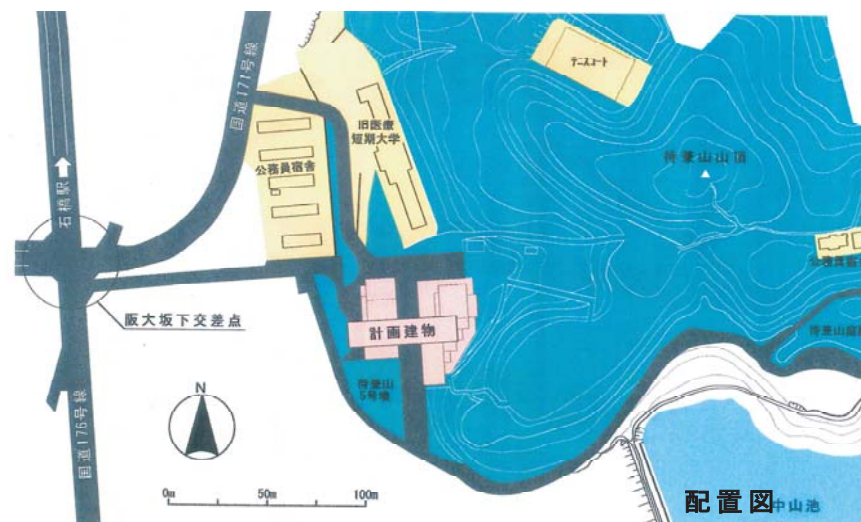


景観と眺望への配慮

待兼山と計画建物の概略断面図



阪大からの外観



配置図

